

文教厚生委員会会議録

- 1 期 日 令和3年6月25日(金)
- 2 会 場 全員協議会室
- 3 開会時刻 午後 2時28分
- 4 閉会時刻 午後 3時30分
- 5 出席者 委員長 嶺岡慎悟 副委員長 窪野愛子
委員 二村禮一 委員 勝川志保子
" 橋本勝弘 " 山田浩司
" 高橋篤仁
- 当局側出席者 健康福祉部長、こども希望部長、教育部長、
健康福祉部付参与、所管課長
- 事務局出席者 議事調査係 竹原俊輔

- 6 審査事項
- ・議案第84号 令和3年度掛川市一般会計補正予算(第6号)について
第1条 歳入歳出予算の補正
歳入中 所管部分
歳出中 第3款 民生費
第10款 教育費(第5項を除く)
 - ・閉会中継続調査申し出事項について 4項目

- 7 会議の概要 別紙のとおり

以上のとおり、報告いたします。

令和3年6月25日

市議会議長 松本 均 様

文教厚生委員長 嶺岡 慎 悟

7 会議の概要

令和3年6月25日（金）午後2時28分から、全員協議会室において全委員出席のもと開催。

1) 委員長あいさつ

2) 付託案件審査

- ・議案第84号 令和3年度掛川市一般会計補正予算（第6号）について
第1条 歳入歳出予算の補正
歳入中 所管部分
歳出中 第3款 民生費
第10款 教育費（第5項を除く）

[健康医療課、説明 14:29 ~ 14:31]
[質 疑 なし]

- 嶺岡委員長
担当課の説明が終わった。質疑をお願いします。

- 嶺岡委員長
質疑を終了する。

[こども政策課、説明 14:31 ~ 14:36]
[質 疑 14:36 ~ 14:40]

- 嶺岡委員長
担当課の説明が終わった。質疑をお願いします。

- 橋本委員
説明資料1ページ。ナンバー1、2、3。こども政策課。補助額90万、90万、330万とありますが。補正内容の書き表し方なんです。いずれも一施設一箇所30万ということ。これは国から指定された基準価格でしょうか。

- 大石こども政策課長
ナンバー1の児童運営事業費の中に、掛川児童交流館と、大東大須賀児童館が別の交付金をもらっている。そのため、掛川児童交流館については、保育所等におけるマスク購入等の感染拡大防止対策に係わる支援を、保育対策総合支援事業費の補助金をもらっております。補助基準額は30万円であり、国の補助金は1/2、残りの1/2は市の負担となっています。失礼しました。訂正します。掛川児童交流館については、地域子育て支援事業費におけるマスク購入に係る感染拡大防止費用で、補助基準額は30万円で、国と県が1/3ずつ、市が1/3となります。先ほど説明したとおり、大東大須賀児童館については、児童厚生施設のため、国の補助金1/2、その残りについては、市の負担ということになります。ナンバー2ナンバー3のつどいの広場事業、地域子育て支援センター支援事業につきましては、掛川児童交流館と同じ、地域子ども育て支援事業の中の一環事業として、国の補助金が1/3、県の補助金が1/3、市の負担が1/3の補助負担となっています。よろしく申し上げます。

- 橋本委員
丁寧な説明ありがとうございます。施設規模とか。その温度をはかる備品を買うのか。そういったものは単価が同じなので。施設規模が違ったり、消耗品の必要枚数が違う中で。30万円ずつで足りるのかなと心配したものですから。あまり深い意味はありません。ありがとうございます。

- 窪野副委員長

子どものそういった児童館等に感染症対策をするのはとても大切なことだと思うんですけども。この状況下で、今利用量。予算とは直接関係無いんですけども。せっかくそうした予算を付けるということで。実際問題利用されてる人数はいかが。戻ってきているのでしょうか。その辺、ちょっと伺いたいと思ひまして。

●大石こども政策課長

はい。コロナ。昨年の6月から時間制限の予約制で開館している。各施設10分から15分間昼休みの時間に施設内の消毒をしています。コロナ前に比べますと来館者数は減っています。場所によって少しずつ変更もしていますので、今手持ちで人数等の資料は持っていませんが、令和元年度に比べ半分以下という状況にあると思ひています。

○嶺岡委員長

では、以上で質疑を終結したいと思います。

[こども希望課、説明 14:41 ~ 14:44]
[質 疑 14:44 ~ 14:51]

○嶺岡委員長

担当課の説明が終わった。質疑をお願いします。

○勝川委員

確認したい。保育所とすこやかこども園と、公立幼稚園。この3つのところで。全ての保育幼児教育施設が網羅されるのか。企業主導型保育であるとか、認可外になっている部分であるとか、小規模だとか。そういったものも含めて民間の保育園の部分、協働保育所ですよ。そういったものも含めて。全ての園がこれでコロナ対策の対応がされるようになっているのか。そこにいただけるどころと、もらえないところがあるのか。

●高柳こども希望課長

今回の事業で計上しているのは、認可保育所です。認定こども園、私立保育園、小規模保育事業所、公立こども園、幼稚園、病児保育所であります。認可外保育園については、こちらの補助の対象には計上してございません。

○勝川委員

そうしますとね、待機児童は、解消したということになっていますけれども。これからも、今までの一般質問の話では無いんですけども。認可外も含めていろいろ使っていくわけですよ。そういったところへの市単補助っていうかねを使っての、同じような。同じようなね。そういう平等な形の、そういう感染症対策のものを。きちんと。どこかで充当しないといけないと思ひんですが。そういった予算組みはしなかったということですかね。ちょっと気になるんですが。国とかのを使おうと思ひると、認可園のところに限られてくるだけけど。それが、全てでは無いという現実。子どもには、園が選べませんのでね。

●高柳こども希望課長

今回は、国の3次補正繰り越しということで、急遽補正を計上させていただきました。認可外保育園については、別の形で例えば育成協会等からお知らせと支援とか対策がされている。はっきりは把握していませんが。そこから支援があるかと思ひます。それから市の方で消毒液とか、マスクとか、そういったものを寄付でいただいたものについては全て、認可外保育所についてもお知らせをして同じように分配しております。

○勝川委員

今ね、育成協会って言ったけど。育成協会の企業主導型保育の部分だと思ひんですけど。やはりあの寄付金とかをいただいたんであれば。乗っかれないところがあるんだったらね、やはりそこにきちんと渡さないはずと思ひます。だからその、この予算のところを反対するわけでは無いんだけど、漏れるところ。漏れるところに関してはきちんと。同じような対応できるように。なんらかの形で。この予算に乗らないまでも、なんらかの形でちゃんと網羅していただきたいと思ひます。そこは大丈夫ですかね。そこ。それがないと。賛成しかねるなと思

ったんですけどね。

●高柳こども希望課長

各園、保育所へ今一度現在の状況、対策の状況を確認しまして、足りないようなところがあれば検討したいと思います。

○嶺岡委員長

他に質疑。はい。勝川委員。

○勝川委員

もう一点いいですか。今認可外の話をしたりしたんだけど。これって。乳幼児の部分だけについてきているということですかね。何が気になっているかという、学童保育所とかね。そういうところの予算とかはつかないのかなと気になっているんだけど。こういうことは大丈夫ですか。

●山梨教育部長

すみません。今回の補正という形の中では、学童というのは対象になっておりませんので、補正の方はしておりませんが。学童とは連絡を密にしております、マスク、消毒液等の不足等あれば、うちの方から支給するような形は引き続きとっておりますので、そこらへの心配はいらないのかなと考えております。

○嶺岡委員長

他に質疑ございますか。委員長から1点確認をさせてください。説明資料の7番8番。すこやかこども園と幼稚園公立園6園ということですが。1園50万円の計算しているのかなと数字的には見ると思う。配分としては、すこやかはタブレットが30万円、消耗品が16万。他の公立園は、合わせて40万円。物品がすごい増えている。この割合が大分違うなという印象を受ける。そのあたり、こうなった理由を教えてくださいなと思う。

●こども希望課荒木主幹

委員長がおっしゃるとおりでして、各園50万円というのを基準にさせてもらっております。補助金の出所が少し違いました。すこやかこども園は、厚労省。公立の6園は文部科学省からの補助金を活用しており、すこやかこども園は、備品購入も補助対象と認められている一方、公立幼稚園については、備品購入が対象外ということがあり、消耗品の比率を多くしている。その代わりに、寄付金を備品購入にあてるという形を取らせてもらっており、1台8万円程度のタブレットの購入を予定している。すこやかの備品30万円は、タブレットと屋外で活用するタイプのテントを含んでいるため、すこやかの備品購入費の比率が高くなっているという形になっております。

○嶺岡委員長

他に質疑ございますか。それでは以上で質疑を終結したいと思います。

[学校教育課、説明 14:52 ~ 14:54]

[質疑 14:54 ~ 15:14]

○嶺岡委員長

担当課の説明が終わった。質疑をお願いします。

○山田委員

今回の一般質問で、この件について述べさせていただきましたけれども。要望という形になります。あの一般質問から、声が私の方にもさらに届いている状況で。やはり答弁でも足りないというような声がありました。私も申し訳なかったなと思っている次第です。現場で本当に苦労している先生方がいるということをおわかって欲しいという。それから、困っている子どももいるという現状を理解して欲しいという先生方の声が届いている状況でございます。つきましては、この学区でも、1か月に1回程度という派遣ということは存じておりますので、現状を見据えて、よく調べていただいて、今後の増額等も含めて検討していただきたいというこ

と。もう1点につきましては、先日教育長の方から、接続障害のことについても、答弁をいただきまして安定した通信の環境をつくっていくということを答弁していただいている状況でございます。これにつきましても、現場からの方から理科室で使えなかった。特別教室で使えなかったという声が毎日のように届いている状況でございます。先生なんとかして欲しいという、そんな状況ですので。ここにつきましても、今後よく現場の方を見ていただいて、次の予算へとまた検討していただけると良いと思います。要望になりますが、よろしくお願いいたします。

●学校教育課柴田主席指導主事

情報をいただきまして、ありがとうございます。私達も4月からいろいろ学校を回らせていただく中で、ネットワークが繋がりにくいよという話を聞きまして。私達も現場でいろいろ対策をしたり、それからこんな風にやるとうまくいくよということを他の学校に情報提供をしたり、いろいろな対応をしているところです。このICT支援員派遣も、とても必要なところで今回、増額をさせていただきました。これ以外にも、課としても手厚い支援をしていかなければいけないということで。研修を新たに立ち上げたり、それからギガ班というのが、指導係に今年できまして。学校からも電話が来て、その都度、緊急対応をさせていただいているところです。まだまだこの後もですね。たぶんそういうものがあるかなと思っています。その都度、対応していただきながら、今後どういうようにしていったらいいかということも、業者と話を詰めているところです。その様子で、今後もし必要があれば、補正予算に出させていただきます。このような形で課の方でも検討させていただこうかなと思っています。

○窪野副委員長

はい。予算とは直接関係ないんですけども、5月の連休明けくらいから、自宅に持ち帰ることがなかには出来てきているところもあるんですけども、その差がいろいろある。学年によってですけどもね。そのことが一つ。そういう話が聞こえてきます。それと持ち帰ったということで、保護者の目に触れるということもあって、保護者はあの、時間ですね。そこであのタブレットを開く時間とか、体の不調というか、姿勢も悪くなってきているし、目の具合もということですので。こういったハードもしながら、そういった対策というの、両方に考えて行っていただきたいなと思って、この席を借りて、お話させていただきました。

●学校教育課柴田主席指導主事

御意見ありがとうございます。全くそのとおりで、情報モラル指導であったり、使い方の指導もしていかなければいけないということで、あのあたりも重点的な事項として、研修会等で学校の方とも、いろいろ話をさせていただいています。持ち帰りについては、やはり学校でいろいろ、事情が違うところがあるものですから、学校で準備ができたところから始めてください。ということで、前回5月末に、調査をしたところ5月の末でやっていたところは3校。そのあと、順次増えている状況で、だいたい夏休みぐらいには、一度持ち帰らせていろいろ体験させるという準備を今していると聞いています。本当に先ほどいったような問題もあるものですからね。きちんとした事前準備をして、やはり子ども達に分けないということがあります。そういう形でちょっと差をつけさせていただいて、あのいるところです。だんだん少し使い慣れている中で、市内の全校が持ち帰りも含めた充実した活用ができるようこちらも、支援サポートしていきたいと思っています。

○二村委員

あの、山田君がこれ、とても派遣が足りないよ。これ300万予算がついているんですけども。これある程度金をつければね、派遣が間に合うのか。お金だけじゃどうしようもない問題があるのか。その辺はどうなっているんでしょうか。

●学校教育課柴田主席指導主事

もちろんトラブル対応が起きたときに、やはり専門的な知識を持った者がその場にいれば、すぐに対応ができます。ただ、あのそうすると31校全てに毎日っていうことになるわけで、そうすると現実的には難しい。そういう中でそれをどういう風にそれを対応していくかという中では、1つはやはり教員のスキルをあげなければいけない。というところがまず一つ。そして、研修等でも、技術研修、操作研修を今、少し増やしているところです。それから先ほど、同じことですが、ギガ班に少し専門的な知識を持った者を職員もいるものですから、学校の方から電話がきたときにすぐに動ける体制を今とって、本日も実はいろんな学校へ、iPadを見に

行っているところなんですけれども。そういったところで支援員だけにこだわってしまってもまずいわけで、いろんな角度で支援をしていかなければいけない。総合的な形で考えています。

○二村委員

ちょっといい。ざっくばらんにね、あとどれくらいの支援金額、補正予算。次にね、9月に議会があるとしたらね、必要なのか。ある程度必要なのか。数字は出してあるのか。そこそこできるためには。

●学校教育課柴田主席指導主事

この支援員派遣の増額については、これでおおむね月1回学校の方にね、行くということになっております。それ以外にギガ班の指導主事が、前期と後期と1回ずつ、終日訪問をしている。いろんな話を聞いて、それを次に活かすというような形をしています。それ以外に、ヘルプデスク、委託業者も平日は、ヘルプデスクの電話対応をしています。それから課の方にも電話かけるようになっております。何か緊急の対応があれば、そこへかけていただいて、その都度対応するとしていますので、そういうあたりをとりあえず、やらせていただいて、その様子を学校の方に、出向いていろいろ情報を得ながら、さらに必要な数というのがあれば、考えていかなければいけないとそんな風に今、段取りをしています。

○山田委員

話が深くなってきたので、すみません、もう少し。話をさせていただきます。やはり、1か月1回という派遣は、先生方には負担だと思っている。やはり、慣れるのが先だという話があると思いますけれども。慣れるよりも、慣れるといたっても、やはりそれが慣れたからといって、得意になってすごくできるようになるとは限らないと思う。例えば50代の先生にしてみれば、タブレットに慣れるのものすごく時間がかかると思う。若い先生は、普段から使っているので、さっさ、さっさできるかもしれません。それを教材として使っていくとなると、そこに研究するための時間。いろいろな労力がかかるかと思っています。その中で、私が訴えているのは、この特別な支援員というのは、できれば、2週間に1回程度。これは、教育委員会の方でも支援員は、2週間に1回程度と目標にかかげていることと思います。2週間であげている。実際に、です。ので、やはりこの目標に掲げていることであるからこそ。教育委員会は目標達成のために頑張るべきではないのかな。それを1か月に1回でよしとするのであれば、なんのための目標だったのか。だったら最初から1か月に1回の目標にすればよいのでは無いかとという風に私は思います。ぜひ、子ども達を支えるために先生方に、この初期の段階であるからこそ、支援員の派遣の方を増やしていただきたいと思う。

●学校教育課柴田主席指導主事

ベテランの方など。年代が上になるほど、苦手な方が多い。そういうところを若手の先生とベテランの先生をペアにして学校では、研修をしたり、スキルを高めるような工夫をしているところ。それから、働き方改革の方も考えていかないといけない。そういう中で勤務時間の中でどうしていくかということもある。それから、私たちの方で、ギガ通信というものを出している。学校に情報をお便りとして出しています。こんなアプリがあるよという紹介をしたりしている。先ほども申し上げたとおり、どのくらいICTの支援員の派遣がいいかというのは、とりあえず、今は月1回ということで。様子を見させていただきながら、また検討しなければいけないと考えている。月1回でいいよということでは全く考えていないおりませんので。その辺はご理解をいただければと思います。

○山田委員

ぜひ、あの目標にかかげている2週間に1回という教育委員会で掲げている、この目標を達成できるための支援をぜひお願いしたいと思います。

●山梨教育部長

ありがとうございます。それこそ、人はいくらいても足りないくらいの状況です。ありがたいお言葉だとは思いますが、一つあの最初に2週間と言っていたときと状況が一点違うのは、先ほどからギガ班ギガ班ということで、お話をしていますが、当初は教育委員会は通常の業務をやりながら、学校のICTについてはその、支援員の方でなんとかやりくりと考えていたのですが、今年、ギガ班ということで、ギガ担当5人つけていただいています。正規の職員ば

かりではないのですが、あの、再任用の方とか。会計年度任用職員の方とかおるんですけども、スキルの高い人が来ていただいている。アプリを一つ、入れるにしても、先生方がやるのではなくて、こちらで対応できる。持ち帰りの話でも、持ち帰りのためのルールづくりとか。申請書とかどうしたらいいのとか細かい部分をうちの方で、引き受けているような状況でございます。学校の困り感のどこの部分をどこで支えていくのか、ということだと思っておりますが、当初の目標で言うと、ICT支援員がいて、2週間に1回くらいという状況が合ったと思うんですが、その頃とは状況がまたちょっと違う。状況で。今あの。こういった形で学校の方の支えをしていくのかというのが、実情でございます。私の感想になりますけれども。私は教員ではないので、先生方の困り感はわからないのですが。想定していたことと、想定していなかったこと。想定外だったことがあります。想定外だったのは、今いい方でいいですよと、当初、電源が入らない、入れ方がわからない、しまい方がわからない。どうしたらいいの。本当の初期のトラブルというのは、少なかったのかなと思います。思っていたよりも、子どもたちは覚えるのは早かったなど。という部分での学校の負担は非常に少なかったかなと。想定外、想定外という怒られてしまいますけれども、繋がらないトラブルというのは、使ってみないとわからない。市役所なんかもそうなんですが、無線で飛ばしているものですから、本当はそこで繋がる予定ではなく、こっちを拾っちゃうとかね。同時に行くと繋がらないとか想定外のトラブルがございます。そういった部分をICT支援員が行って直していたりとか、設置したときの日電ビジネスさん。あるいは納入業者の遠鉄システムさんが、原因を切り分けて、どこかで対応するという形でやっていますので。見かけの数字よりも、多くの方が係わっていただいて、今支えていただいているような状況です。もう1点言うと。同時に繋げると。繋がらないというトラブルがあって、学校に今お願いしているのは、全員同時に繋げてみましょうという実験をやっています。やる予定です。それがどうなるか。それでまた原因の洗い出しをして、対策を打っていくという。走りながら考えながら、という部分が正直ありますので。その部分で学校さんの負担になっている部分はあるかと思いますが、そこらへんを丁寧にうちの方で拾っていきたく思っております。状況は以上でございます。

○山田委員

あの先ほど、検討していただけたということなので、主席指導主事からお話がありましたので、ぜひ、前向きに検討していただいて。ぜひ追加の予算を立てる等していただいて、子ども達のためにぜひお願いしたいです。現場の先生方も本当に困っているのが現状です。私のところに毎日来ます。困っていると。指導案を一つつくるのに今までは普通の指導案をつくって、授業を展開していけばよかった。ところが、タブレットが入った。うまく使うために、よりよい教育を子ども達につけるために、それを使ってどうしたらいいか。不得意な先生に取ってみれば、本当に苦勞しています。そのへんのご理解をしていただいて、ただ、与えるだけではなく、ギガ班ということも承知しております。本当に指導主事の先生方が一生懸命学校に出向いてくださっているのも、理解しております。でもそれだけでは、やはり日々足りないというのが現状じゃないかと思われま。先生方の帰宅時間も、遅いかと思います。遅い学校、十時まで電気がついてます。そういうことも、市役所のみなさんも大変苦勞してくださっていると思いますけれども、そういう意味でよく見ていただきたいと思います。

○嶺岡委員長

私の方から、そこに関してちょっと確認を含めて質問になりますが。この2ページのところを見ると寄付金が300万円もらって、国庫支出金として500万と4000円。33ページ見ると1/2。1000万と8000円に対して1/2ということですけど。実際、今回、それが一般財源に出るということですが、ここを話をいただけたら。どういう経緯で。もともとICT支援員のものが新たに国の方から補助がもらえたりとか。そんな感じの経緯かなとは思いますが。そのあたりもお話いただけたらと思います。

●学校教育課柴田主席指導主事

今回の予算ですが、当初の予算1000万円くらい。その中の半分が国の補助金でギガスクールサポーターということで補助金がもらえることが決まりましたので。500万円くらいが、1/2が国庫の補助金ということになる。残りの300万全部で、合計1300万になるんですけども、そのうちの300万は寄付金。そういう予算になっています。

○嶺岡委員長

わかりました。他に質疑はございますか。質疑を終了する。

〔討 議〕

○嶺岡委員長

質疑が終わった。委員間討議をお願いします。

○勝川委員

2点にわたって意見を述べたい。まず、最初は先ほど触れた保育園とかの感染症対策の部分。いろんな形で子ども達預かり方もしているし、様々な場所で感染症の対策は必要になっている。ここに乘れるからここにお金を落とすというだけではなくて、本当は全体にきちんと感染症の対策がされるように市が目配りをするというかな。そういうことというのは、本当に大事ではないかな。そこの視点を持ってこの予算が入らなくても、既決予算の中でフォローをして欲しいという思いがある。もう1点は、ギガスクール構想のこと。これは、前倒し、前倒しでコロナ感染症対策ということで。あの、導入を急いで図りましたよね。こうなることは、去年の段階で、そんな急に導入したって、それは大変だよ。現場どうなるのって話は何度もしている話だと思う。だから予算付いたから、もう今年度中にいれるのよっていうことで走った。でもやっぱり、あの現場は大変なことになるっていう。子ども達の健康面でのフォローっていうのもこれからですよ。なんていうの、惨事便乗型じゃないんだけど、コロナ対策の部分と、ICTをきちんと、ギガスクール構想として、端末をきちんと使える子ども達にするんだというのが、一緒くたになって前倒しされているっていうのはね、そこはね、やはりそこはきちんと振り返らないといけないんじゃないかな。私たちが予算をこう、承認して、そういう形でやった結果なんですから。山田議員も言っていたけど。押してきたわけですよ。そこは捉えながら。あの。ね。そのフォローっていうのは、追っかけになる。大慌てでやったわけだから。最初からわかっている。こういう風に変なことになるだろうというのは、予想されていたこととしてあるので。後追いの部分を丁寧にやらざるを得ない。今後いろいろなことをやっていくときに、とにかくここまでにとやってしまうことの危険性というのは、すごい、感じています。一つやることで波及する、いろんな、影響っていうのはあると思うので。丁寧に。じっくりと現場の声とか状況を拾いながら、施策を進める必要があるんじゃないかなと、今回の質疑を聞いていて思ったところがあります。

○嶺岡委員長

まずは、一つ、一つ。2つテーマをあげられましたので。感染症対策の幼稚園、保育園。認可外か、企業保育所がなかなか対象じゃないよっていうことに対して、バランスが悪いってような意見も出ましたけれど。その件について、みなさんの御意見、討議を。はい。橋本委員。

○橋本委員

国の第3次補正ですか。国も相当のお金を、コロナ対策に付けていて。コロナ対策なので、やりすぎっていう部分は少ないと思うのですが、この辺の一施設30万円とかね。検温器、一律配備するとか、若干本来必要な部分に回っているかどうか確認しないとけない。また抜けている部分をしっかりその、フォローしていないというのは、行政としては、補助金をいかに有効に使うかという視点だけに走っている感じがする。そこは大変だと思いますが、やはり抜け落ちている部分を、どういう風に一般財源は寄付金で浮いてきている部分もあるしね。そこはやはり、対策してあげるとというのが、最終。同じ市民なんですから。そこが義務じゃないかな。今回の補助金とは若干、筋が違いますけど、私もそういう風に思いましたので。その辺は、これから配慮いただきたいなと思います。

○嶺岡委員長

まずは、感染症対策ということで。窪野副委員長。

○窪野副委員長

あの二人がおっしゃるとおりだと思います。昨日の小規模保育園のことについても、市長もやはり、思いを語ってくださっていましたし、掛川の未来を育む子ども達という視点で様々な施策が津々浦々まで行ってくれることがいいかな。その子が行っている園の状況ではなくてということ。勝川委員のおっしゃること、橋本委員のおっしゃることもよくわかって。そのあ

たりも当局も重々、わかっていると思っておりますので。そのようにしていただけたらと思います。

○嶺岡委員長

今回の予算ではね。この30万円と、抜けているところは、私たちでも、先ほど橋本委員も言われたとおり、平等というか、同じ市民ですので。そこは絶対私たちも見落とさないようにやっていかなければいけないなと私どもも思いますので。そういう方向にできるように。ということで。次に、ギガスクール。先ほど、山田委員からも発言をいただきましたけれども、実際に、勝川委員も言っていましたけれども。本当にあの去年のときから、昨年度から、本当に心配していたところで。その支援員が、私も実際現場の声等も聞いていても、本当にそこが心配で。私の世代でさえ、すごい心配をしていたというのが実際。ありました。その中で今こういった現状に。現実になっている中で。今回こういう支援員。プラスアルファのものではありませんけれども、これじゃなかなか足りないという御意見もありました。他にもぜひ。山田委員お願いします。

○山田委員

はい。接続障害の話をね。そこも大きな問題かと思っているんです。あの、授業中に、さあみんなでおおうと思ったら、繋がらなかったという場合は、授業が成り立たなくなっていますね。先生方としては、もう繋がらなかった先生にどうしたのって聞くと、しょうがないから、片付けさせて、教科書出させて、次の別のことをやると。先生方もパニックになりますね。やろうと思ったときに繋がらない。それと、今部長からもお話があったとおり、違うところから拾ってしまうというケースも多いようで。あの、これについても、現場としては困っているという話も聞きます。教育委員会の指導主事の先生方は本当にご苦労されて、現場の方回ってくださったりとか、ギガ班の本部も本当にご苦労されているのは、伝わってきていますが。やはりこのハード面についても、快適にせたくものを入れて、現場の先生なんていっているかという、時々声、小さな声ですけども。与えっぱなし。という声も聞かれます。そういうところまでちゃんと目をかけて欲しいという。ものを与えたら、最後までアフターフォロー、そこを足すためには、ギガ班があつてちゃんと一生懸命やってくださっているとは、思っているんですけども、やはり、早急に解決して欲しいなと思っております。接続障害の部分、つながらない場合、授業が成り立たない。先生パニックになる。違うところから拾ってしまう。ハード面、与えっぱなしという声もある。アフターフォローが必要。

○高橋委員

この授業中に起きるトラブルをカバーするのと、授業をね、上手に進めていくっていうのは、二つあるのかなと思って。授業中のトラブルは、別、置いておいて。よく先生の授業の成功事例集をまとめて一冊の本になっている本。名称は忘れてしまいましたが、なんとか物語というのがありますよね。ああいう形ですね、このギガスクールの授業でうまくいった成功事例集をね、今後、先生同士でまとめてね。そういう所謂お金無いただったら、無いなりの工夫をね。できるような、みんながうまく出来た事例集をつくって、レベルアップしていくっていうのも必要なかなと思います。なぜかという、寄付金ありきで予算つくっているわけじゃないですか。これが継続的になると。なかなかお金の工面は難しいのかな。当局からの説明を受けていますと、なかなか苦しいんじゃないかな。ならば、お金のかからない方法を独自で考えて行く必要があるのではないかと感じました。以上です。

○嶺岡委員長

はい。山田委員。

○山田委員

あの独自でという、話なんですけれども。例えば、これは、できるかどうかわからないんですけども。地域の方でそういう得意な方の、人材バンクでは無いんですけども、まちづくり協議会なんかと連携して、そういう方を。地域のボランティアの方を派遣する。そういう方法もあるかなというのは、考えてもみましたけれども。今日は松浦議員のお話があった中で、そういったこともできるかなと思いました。以上です。

○嶺岡委員長

うちの妻も今日のボランティアでトイレ掃除に今日、小学校に伺っているんですけども。やはり地域の若い人たちに、保護者さんとかでも、使える方とかも、非常にいい意見かなと思いますし。特に保護者だったりとか。もっと使える力を。やはりなかなか私たちの父親世代は、母親も働いているので、なかなか難しいのは事実ありますけれども。そういった力を借りるとするのはいろんな検証はあってもいいかなと思います。

○窪野副委員長

先ほど、勝川委員がどんどん進めていったところの弊害がこう今。確かにそういう面も、あるかもしれないんですけども。私は授業中の、タブレット授業は拝見してはいないんですけども。私が身近で触れる学童の子ども達は、帰ってくるとすぐ、タブレットを広げて、嬉々としてとして、友達とやってたりするものですから。やはり、そのあたりはね。全てが早く導入したのが、悪かったとかではなく、様々な良い面もあるから。そのあたりもクローズアップしていくのが大事じゃないかなとお話伺っていて思いました。

○嶺岡委員長

いろんな意見を出していただいて。これからフォローが、議会でも。文教厚生委員会でも。注視しながら、今回の予算はとりあえず、プラスで付けたというか。寄付金をもらって付けたというような予算ではありますが、これだけで十分かどうかとか。他の方法がないかどうかとか。そこは、皆さんで協議なり、いろんなアイデアを出していければと思います。

○嶺岡委員長

討議は以上とさせていただきますと思います。よろしいでしょうか。

〔討 論〕

○嶺岡委員長

討論になります。討論はあるでしょうか。よろしいですか。

○嶺岡委員長

以上で討論を終わりたいと思います。

〔原案の採決〕

議案第84号 令和3年度掛川市一般会計補正予算（第6号）について

全会一致にて原案とおり可決

3) 閉会中継続調査について

○嶺岡委員長

資料のとおり、4項目の内容でよろしいでしょうか。それでは、文教厚生委員会の閉会中継続調査については、4項目と致したいと思います。

4項目で了承。

4) その他

○勝川委員

閉会中継続審査の部分で、あの、これで全然問題は無いわけなんですけど、今やはりコロナのワクチン接種の問題だとか、結構あのどんどん変わっていくところがありますよね。議長からはね、個人で議員が行かないようになっていうあれもあって。必要に応じて本当は文教厚生の部分で、質問事項をまとめるであるとか。これについて説明をしていただけるようお願いをするとか、こういったものも含めて閉会中であっても、文教厚生として動いていただきたいという要望です。

○嶺岡委員長

あの今、回答でやりますとは言えないですけども。そこで副議長いらっしゃいますが、ちよと議長とご相談しながら今のご意見。やはり日々変わっていくところで、いろんな意見、あの今日もある苦情を受け付けたとかっていうことを聞いたりもしていますので、そういったものとかをなかなか伝えきれない。すぐに対応するってこともあったりとかもありますし、そういったことも含めて、今後また議長とも相談していきたいと思いますので。何かしらでは回答をしたいと思います。他に委員方から。それでは、閉会にあたりまして、窪野副委員より挨拶をお願いします。

○窪野副委員長

3日間にわたる委員会お疲れ様でした。おかげさまを持ちまして、全会一致でこの議案は、議決されることになりましたので、ありがとうございました。

○嶺岡委員長

それでは、以上で文教厚生委員会を終了します。

5) 閉会 15:30